



地震が起きた時 1

まずは自分の命を守る



- 地震を感じたら、まずは落ち着いて自分の命を守ることを考えましょう。
- 倒れやすい本棚や、窓ガラスからはなれて、机など丈夫な物の下にかくれましょう。



火の始末



- 火の始末は地震の揺れがおさまってから行いましょう。
- 揺れている最中にあわてて火を消そうとすると、やけどをしてしまうかもしれません。
- 自宅から避難する際はガスの元栓を閉め、ブレーカーを落としてから避難しましょう。

避難時の注意ポイント

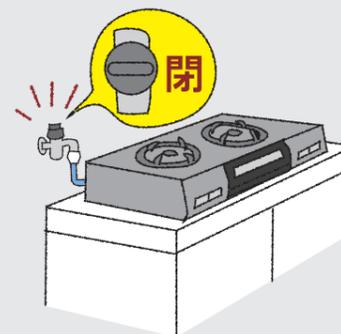
避難するときにあわてないように、避難時の注意ポイントをおさえておきましょう。

靴をはく

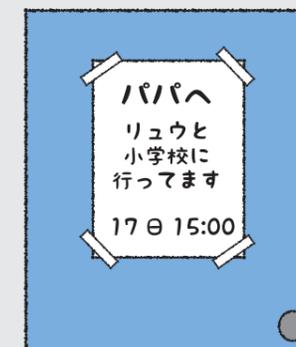


火の元確認

- ガスの元栓 ●ブレーカー



メモをのこす



安全が確認できるまで 家に戻らない



危険な場所に近づかない



地震が起きた時 2

地震発生時のタイムライン

南海トラフ巨大地震では、揺れが長ければ3～4分続くとも言われています。揺れが長く続くかもしれないと覚えておけば、実際の地震が起きた時、慌てず落ち着いて行動ができます。平成28年の熊本地震では、本震クラスの地震が繰り返し発生しました。1度大きな地震が起きた後でも、大きな揺れが続くことを警戒し、避難行動を行いましょう。

常に揺れに注意
むやみに動かない

堤防の決壊や土砂災害が予想される場合にはすぐに避難!
台風・大雨のとき P15
土砂災害のとき P17

緊急地震速報
地震発生
1分
2分
3分
4分
5分

自分の命を守る
机など、その場で一番丈夫な物の下にかくれましょう。
●落ちてこない場所
●倒れてこない場所
●移動してこない場所
倒れそうな物を支えに行かない。

火元の確認
火を使っているときはあわてずに火の始末をします。
出口の確保
揺れでドアが変形し開かなくなることもあります。ドアを開け、出口を確保しましょう。

家族の状況確認
発災時は自分や誰かが怪我をしているかも知れない可能性があります。家族同士で怪我がないか、家に危険がないか確認しましょう。

靴を履き、非常持出品を用意
散乱したガラスの破片などで怪我をする恐れがあるため、底の厚い靴を履きましょう。
●非常持出品 P32

隣近所の安否を確認
一人暮らしの高齢者などの要配慮者がいる家庭には積極的に声をかけて、安否を確認しましょう。
●要配慮者 P4

正しい情報を得る
ラジオやテレビ、スマートフォンを活用して、正しい情報を得ましょう。
●情報の入手方法 P29

裸足で歩かない。
出火の原因になるため、電気のスイッチを触らない。ブレーカーを上げない。
電話回線がパンクするので、不要不急の電話の使用を避ける。
ブロック塀などに近づかない。
救出活動は一人ではなく複数で行う。

緊急地震速報

地震の大きな揺れが到達する数秒から数十秒前にテレビやラジオ、スマートフォン、防災行政無線などを通じて、強い揺れが来る地域をお知らせします。緊急地震速報で得られるこの数秒から数十秒という時間は、短いですが、大きな揺れの前に身を守る行動をとることができる、唯一の貴重な時間です。緊急地震速報を聞いたなら、まずは身の安全を確保しましょう。

屋内にいるときの行動

自宅では

- テーブルやベッドの下などにもぐって頭を守りましょう。適当な所がないときは手近にあるクッションなどで身を守りましょう。
- 料理中は、あわてずに火を消しましょう。また、お湯を沸かしていたら、お湯がかかって火傷を負う可能性があるため、すみやかに離れてください。
- 揺れがおさまったら、直ぐにドアを開けて逃げ道を確認しましょう。

職場・学校では

- 学校では先生や校内放送の指示に従ってください。
- すぐに机の下にもぐり、机の脚をもって支えてください。
- 窓際やロッカー、資料棚、コピー機などから離れて、頭を守ってください。
- 揺れがおさまったらガス湯沸かし器やポットのスイッチを切るなど、火元を確認してください。
- 外に出られる通路の安全を確認してください。

デパート・スーパー・コンビニエンスストアでは

- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意してください。柱等に身を寄せ、手荷物で頭を守ってください。
- あわてて出口に殺到するとパニック状態になることもあり危険です。店員の指示に従ってください。

エレベーターの中では

- すべての階のボタンを押して最寄りの階で、エレベーターを降りてください。
- もし閉じ込められた場合は、非常ボタンやインターホンで外部と連絡をとり、救出が来るのを静かに待ちます。
- 揺れがおさまった後に動いていても、避難には使用せず、非常階段を使って屋外へ出るようにしてください。

屋外にいるときの行動

路上では

- 手荷物などで頭を守り、広場などへ移動します。
- 繁華街では上からの落下物に注意してください。住宅街ではブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒にも注意が必要です。

海の近くに出かけたとき

- 揺れを感じたらすぐに高台へ避難しましょう。

クルマの運転中は

- 徐々にスピードを落とし、左側に車を寄せ停止してエンジンを切ってください。
- クルマから離れる時には車検証など貴重品をもって、キーはつけたままロックしないで離れてください。
- クルマに乗っているからといって、そのまま避難に使用しないでください。渋滞し交通が混乱するおそれがあります。

ため池の近くでは

- 農業用ため池が揺れや液状化により、損傷・決壊するおそれがありますのでご注意ください。ため池の場所や浸水想定区域は農地整備課ホームページ (<https://www.city.gifu.lg.jp/kura-shi/bousai/1001359/1001367/index.html>) でご確認ください。



避難の流れ

地震災害が発生すると「緊急地震速報」など岐阜市から災害に関する情報が放送されます。街のスピーカー（防災行政無線）、ラジオ、テレビなどから放送される災害情報を収集しましょう。●情報の入手方法 P29



避難するときの服装

地震後は、床や地面に様々なものが散乱しています。また、余震も続くことから、いつ頭上に物が落ちてくるかも知れません。頭と足に怪我を負うと避難などの行動に大きな負担となります。頭と足の安全を確保しながら避難してください。手には何も持たないようにし、ケガの防止として軍手の用意をしておきましょう。夜間の避難では懐中電灯が必要ですし、服装も気温の変化に応じて調節できるようにしておくといいです。

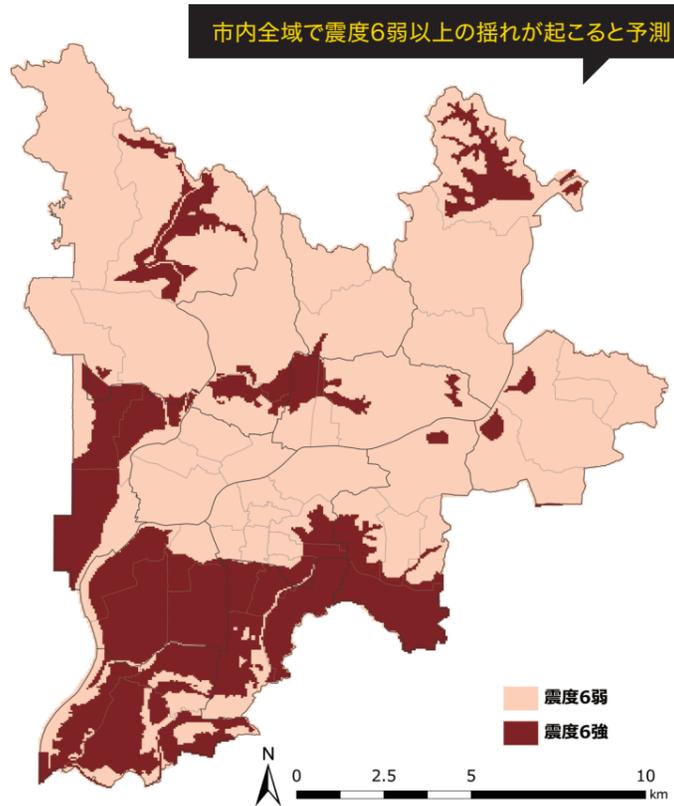


地震が起きた時 3

南海トラフ巨大地震発生時に予測される被害

岐阜市では、南海トラフ巨大地震のうち、本市への影響が最も大きくなる宮崎県日向灘沖を震源とする地震を対象に、被害想定調査を実施しました。

震度分布図



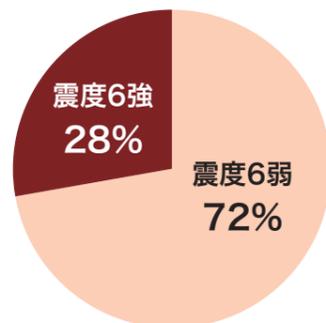
人的・物的被害

| | | |
|------|------|---------|
| 建物被害 | 全壊 | 11,255棟 |
| | 半壊 | 31,874棟 |
| | 焼失棟数 | 293棟 |
| 人的被害 | 死者 | 412人 |
| | 負傷者 | 4,118人 |
| 避難者数 | | 34,275人 |

被害が最大となる季節・発生時間の結果を抜粋(令和2年度調査)

→ ハザードマップ P54

| 震度6弱 | 震度6強 |
|-------------------------|--|
| 固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。 | 立っていることができず、固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 |



これらの被害は、みなさんが日ごろから家庭でできる地震対策をし、揺れがあった時に適切な行動をとることで減らすことができます。地震は突然起こるので、日常からの備えがどれだけできているかが大切です。日常の対策編に記載されている家の耐震化や家具固定、防災用具の備蓄に取り組むとともに、本章を参考に地震発生後に適切な行動をとります。

液状化現象

液状化は、水分をたくさん含んだ砂の地盤で発生する現象です。地震が発生する前は、地面の砂のすき間に水をたくさん含みながらも砂粒同士がくっつきあい支えあって一見硬い地面があるように見えます。しかし、地震が発生して地盤が強い振動を受けると、今までお互いに接して支え合っていた砂粒は水に浮かび、地面が沼のようになってしまいます。そして、地震がおさまると、砂粒は以前より密になり、その間にあった水は地表に湧き出てきます。液状化現象がおこると、その上に立っている建物が沈んでしまったり、地中に埋まっていたマンホールや埋設管が浮かんできたり、地面全体が低いほうへ流れてしまったりします。



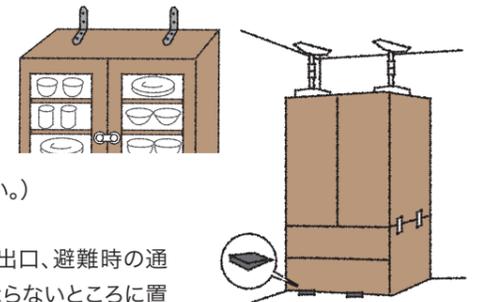
→ ハザードマップ P54

特に重要な事前対策

家の中の安全対策

→ 家の中の安全対策 P36

- 自宅の耐震性が確保されているか確認しましょう。 **Check! 2**
- 家具の転倒や落下を防止しましょう。 **Check! 3**
- 寝室や子供・高齢者・障がい者がいる部屋には倒れそうな家具を置かないようにしましょう。 **Check! 4**
(岐阜市では高齢者のみの世帯等を対象に家具転倒防止器具の取り付けを無料で実施しています。詳しくは35ページをご覧ください。)
- 家の中に、家具のない安全なスペースを確保しましょう。
- 出入口や通路には物を置かないようにしましょう。特に玄関は脱出口、避難時の通路として重要です。自転車や鉢植えなどは、避難や通行の妨げにならないところに置くようにしましょう。階段にも物を置かないようにしましょう。



最寄りの避難場所、避難所の確認

Check! 1

それぞれの地区には、指定緊急避難場所が指定されています。地震が発生したとき、周囲の安全が確保できるまでは、この指定緊急避難場所に避難し、安全を確保してください。また、自宅で生活できない場合には、市内の指定避難所に移動し、避難生活を送ることになります。地区のどこに避難場所、避難所があるかを本書のハザードマップを使い、家族で確認しあってください。単身の方はご自分で確実に確認してください。休日を使って、実際に出かけて確認することを強くおすすめします。 → 避難場所の確認 P32 → ハザードマップ P54

指定緊急避難場所、指定避難所には、その施設が指定緊急避難場所、指定避難所であることを示す看板を設置しています。

不用意に動かず、安全な場所にとどまる判断

地震はいつ起こるかわかりません。仕事、通学、旅行などで自宅から外出しているときに被災する可能性もあります。その場合、多くの人が一斉に帰宅しようとする、駅などに人が集中することによる集団転倒、帰宅途中での建物火災、建物倒壊による負傷などの恐れがあります。さらに、救急車両が現場にたどり着けず、被災者の救命活動に支障が出ることも懸念されます。東日本大震災のときは、多くの帰宅困難者が発生し大きな混乱が生じました。まずは「むやみに行動を開始しない」ことが大切です。ラジオなどで正確な情報を把握しながら、勤務先や学校、避難場所などで待機しましょう。

徒歩帰宅する場合

岐阜県では、県内のコンビニエンスストア、ガソリンスタンドなどと協定を締結しており、災害時には「徒歩帰宅支援ステーション」として、「水道水の提供」「トイレの使用」などの支援を受けることができますので、ご利用ください。

徒歩帰宅支援ステーションには右記のステッカーが掲示されています。▶

